

かだん



第70回 地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、宮原望美さんにご紹介いただいたこの方は、「地域との交流を大切にして、地域の活性化に尽力しているスゴイ人」とのこと。インタビュアーは又木志帆でお届けします。

【今回のスゴイ人】

株式会社かだん

丸目 美彦さん



今回は、株式会社かだんで支配人を務める丸目美彦さんにお話を伺ってきました。

伊佐市大口のご出身で、お花が好きだったため就職先はお花屋さん。

「東京のお花屋さんに就職できたんですが、私の手違いで葬儀場のお花を取り扱うお花屋さんに就職しました」

最初は戸惑いもあったと話す丸目さん。要望に合わせて、花で富士山や音符のマークを作ったりと繊細で技術のいる仕事だったそう。

それから10年ほど経ち祖父が亡くなった時、葬儀社の担当者の方々に、親身になって支えてもらったという丸目さん。

「その方が心の支えになり助けてもらったので、みんなで祖父を送り出せました」

この経験がきっかけとなり地元伊佐市に帰り、その葬儀社に就職。いざ入ってみると、とても難しい仕事でした。

「葬儀社は、レベルの高いサービスが求められる業種だと思っています。家族が亡くなるというのは、

もの凄いいストレスなんです。悲しみで落ち着かないご家族に、へりくだり過ぎる態度では、よそよそしくなります。ご家族の方に目線を合わせて接するように心がけています」

ほかにご家族がどのように送りたいたのか本音を聞き出す「聞き力」が必要だったそう。

「ご家族との話の中で、庭の柿の木の話が出れば、枝を少し切って棺に入れてあげたこともありました」

ご家族に一生懸命に向き合う葬儀社でありたいと日々考えている丸目さん。

「職員みんなで考え、ご家族が最後の時間を納得できる形になるようにサポートしています」

葬儀後、ご家族から無事に送り出せたと言ってもらえた時が一番ほっとするといいます。

今年で6周年を迎えるかだん。丸目さんは日頃の感謝をこめて、地域の方々に楽しんでもらえるマルシェを11月に開催しました。

「マルシェを通して、地域の方々と交流し、葬儀社のことを知ってもらえたら」と話してくれました。

実は隣のスゴイ人

▶インタビューを終えて

葬儀に正解はないという丸目さん。だからこそ故人を想ってご家族と一緒に考え、皆さんが納得できるようサポートしたいという想いが伝わってきました。(又木)



利用者のためひと部屋を丸ごとキッズルームに



株式会社かだん

末吉町二之方5129番地5

☎ 0986-76-4424



協力隊の今日この頃

お疲れ様です。又木です。早いものでもう師走となりまして。先月はたくさんさんのイベントが開催され、賑わいを取り戻しつつありますね。寒空の中、花火を見上げて、冬の花火も悪くないなと感じたところです。市報の取材では、株式会社かだんの丸目さんにお話を伺ってきました。誰にでも最後は訪れ、残された家族がどう送り出すのか、みんな考えてお聞きしました。送る側も送られる側も安心して執り行うためにも家族間でも話し合っ

ておくべきなのかなと思いましたが、そんな中、私の棺には入れてほしいような、入れてほしくないようなものがあります。それは、一年前から育てているサボテンです。20センチほどのサボテンが今や160センチ以上に。支えもなく、立っているのがとても不思議なくらいです。鉢を一回変えたのと、月に二回ほど水をあげているだけでこんなにも大きくなるとは思っていませんでした。また、報告します。(又木)



育て始めた頃のサボテン



今では高さ160センチに成長